

エズラ書
聖徒伝 193

御言葉に堅く立ち 地に足をつけて

エズラ書1章

バビロン捕囚と帰還

アウトライン

- I. バビロン捕囚とは？
- II. 捕囚からの帰還 1章
- III. まとめと適用
生活し、
聖書に堅く立ち、
実行しよう



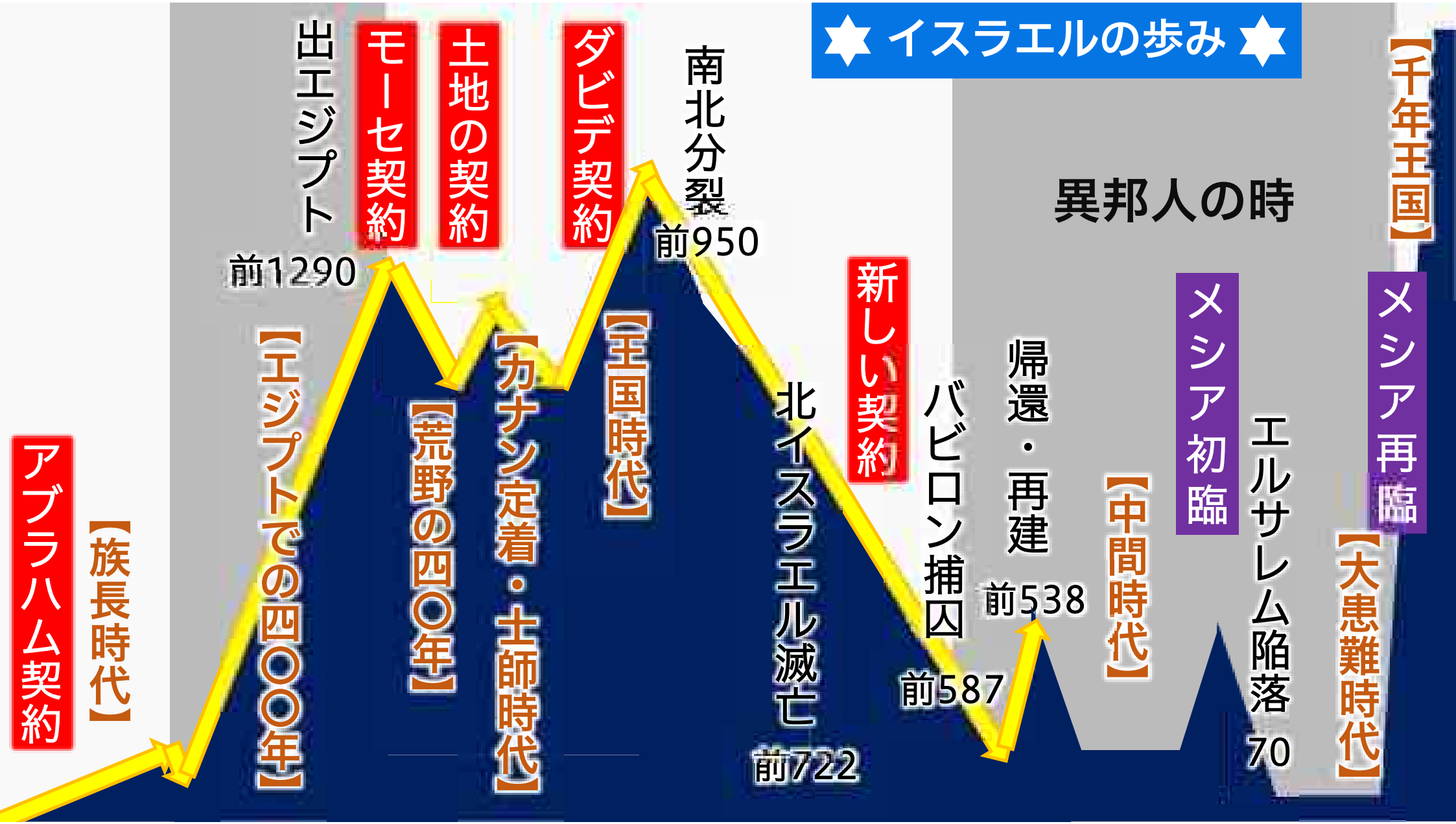
バビロンのイシュタル門



1. バビロン捕囚とは？

エルサレム陥落

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

前1290

【エジプトでの四〇〇年】

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

前950

南北分裂

前722

北イスラエル滅亡

新しい契約

前587

バビロン捕囚

前538

帰還・再建

【中間時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

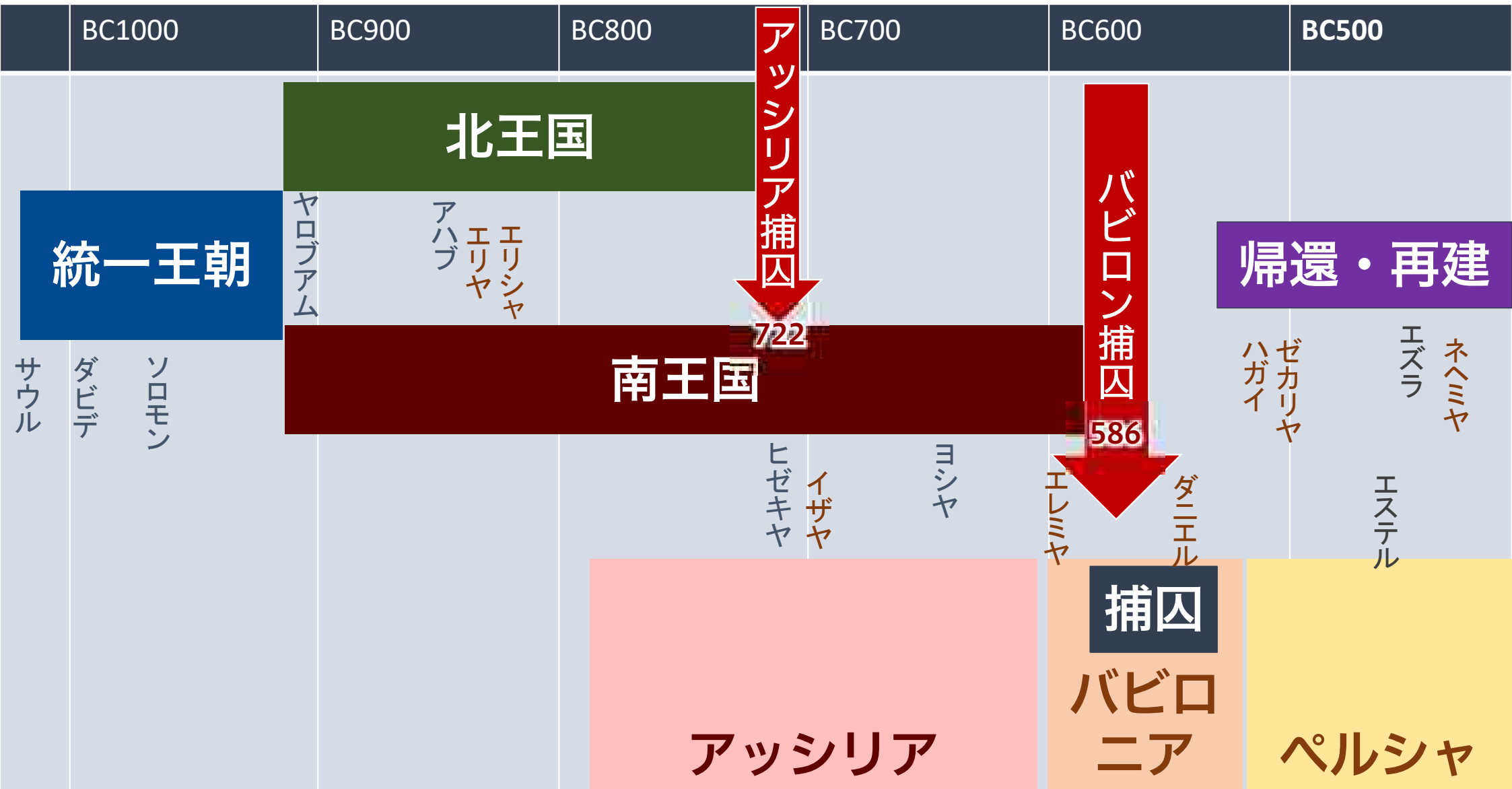
【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

イスラエル王国史



北王国
イスラエル

南王国
ユダ

アッシリア捕囚

BC722年



ヒゼキヤ ♡
29年

マナセ ☠️
55年

イザヤ

ミカ

アモン ☠️ 2年
エホアハズ 3ヶ月

ヨシヤ ♡

31年

ハバクク

ゼパニヤ

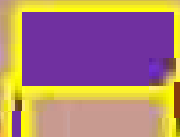
バビロニアの侵略

荒廃の時代

バビロン捕囚

BC586年

エホヤキム ☠️ 11年



エホヤキン ☠️ 3ヶ月



ゼデキヤ ☠️ 11年

エレミヤ

バビロン捕囚・エルサレム陥落

■ BC605 …ネブカドネツアルが、初めてエルサレムに侵攻。

第一次バビロン捕囚 …ダニエル

■ BC597 …エルサレムを占拠。有能な市民をバビロンへ。

第二次バビロン捕囚 …エホヤキン王、エゼキエル

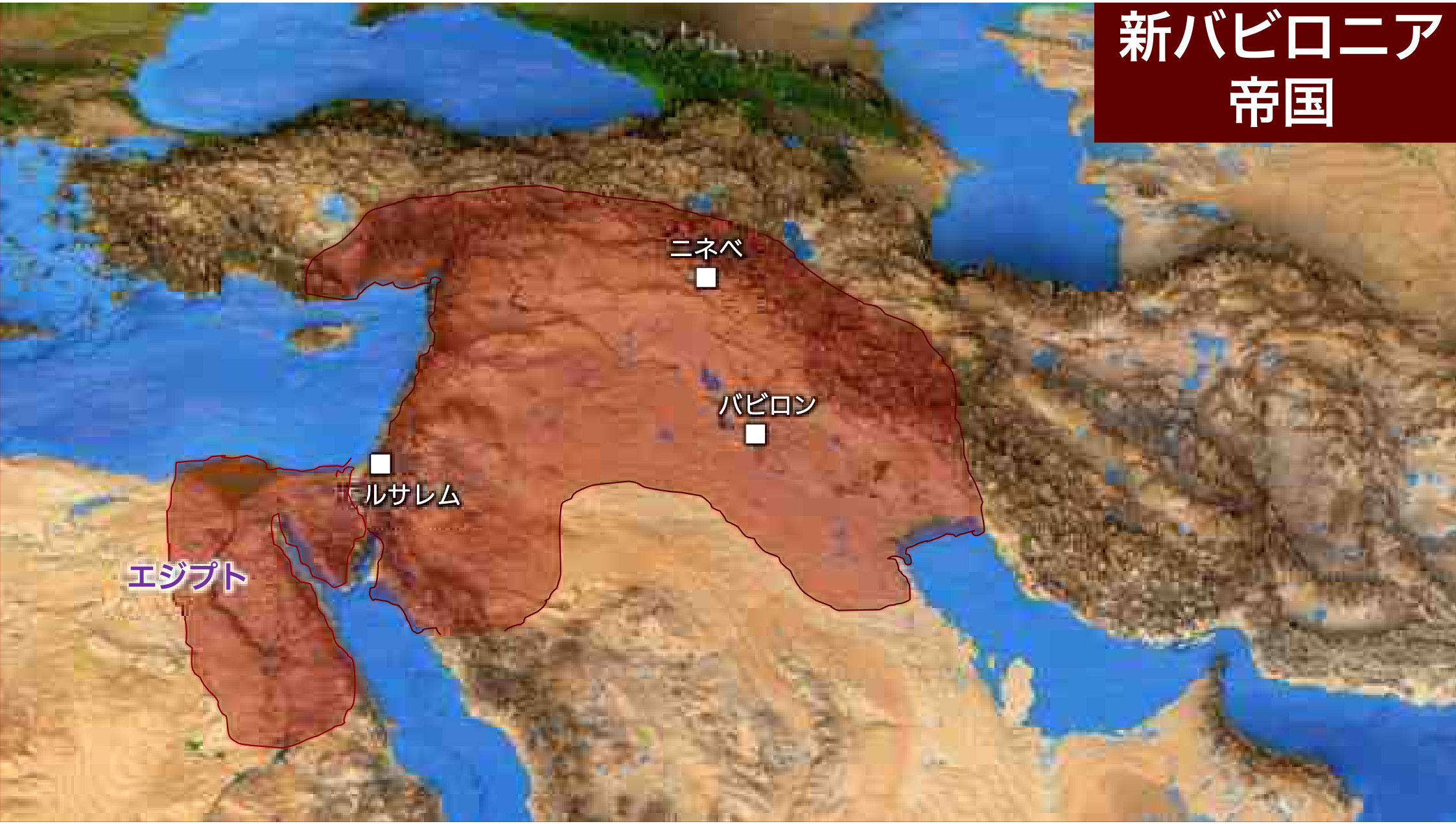
■ BC586 …エルサレム陥落。神殿も破壊。住民の多くが捕囚。

第三次バビロン捕囚 …ゼデキヤ王

■ BC583 …比較的小規模な捕囚。

第四次バビロン捕囚

新バビロニア 帝国



ニネベ



バビロン



エルサレム



エジプト

バビロン捕囚の間のイスラエル

■ バビロニアの政策は、被征服民の文化や宗教を一定程度、許容した。

→ ヤハウエへの信仰を保ち続けた。

■ エルサレムの捕囚の民は、ティグリス川、ユーフラテス川の河畔に集団で生活した。

→ 家を建て、働き、子を生み育てた。

■ 有能な者たちを、積極的に任官。

→ ダニエル、3人の友人たちなど。



ユーフラテス川

捕囚の民への神の命令

■エレミヤ書29:5～7

『家を建てて住み、果樹園を造って、その実を食べよ。妻を迎えて、息子、娘を生み、あなたがたの息子には妻を迎え、娘を嫁がせて、息子、娘を産ませ、そこで増えよ。減ってはならない。

わたしがあなたがたを引いて行かせた、その町の平安を求め、その町のために【主】に祈れ。その町の平安によって、あなたがたは平安を得ることになるのだから。』

捕囚の民に主が与えられた希望

■エレミヤ書29:10~11

まことに、【主】はこう言われる。『バビロンに**七十年**が満ちるころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにいつくしみの約束を果たして、あなたがたをこの場所に帰らせる。

わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている——【主】のことば——。それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。

七十年とは、いつからいつまで？

■バビロン捕囚 BC586 → キュロス王の勅令 BC538

48年!?

★立場A …完全数だから、年数にこだわらなくていいのでは？

■70年になる計算方法

①A説 …BC605・最初の攻撃 → BC535・神殿の土台が敷設

②B説 …BC586・エルサレム陥落 → BC516・神殿完成

③C説 …BC608・ヨシヤ王の死去 → BC538・キュロスの勅令

三浦推しは、C説!!

七十年とは？ 歴代誌第二36章の文脈から

■最後の善王ヨシヤの死後、捕囚までを、わずか1章に

- エホアハズ(3ヶ月) …エジプトに連行
- エホヤキム(11年) …バビロンに連行
- エホヤキン(3ヶ月) …バビロンに連行
- ゼデキヤ(11年) …**エルサレム陥落**
バビロンに連行

滅亡一直線!

■ヨシヤ王の死後、滅亡に向かって転げ落ちるだけだったイスラエル。

→ヨシヤ王の死と共に、荒廃の期間に突入?!

歴代誌第二36章における「荒廃の全期間」

■ 歴代誌第二36:21～22

これは、エレミヤによって告げられた【主】のことばが成就して、この地が安息を取り戻すためであった。

その**荒廃の全期間**が**七十年**を満たすまで、この地は安息を得た。

ペルシアの王キュロスの第一年に、エレミヤによって告げられた【主】のことばが成就するために、【主】はペルシアの王キュロスの霊を奮い立たせた。王は王国中に通達を出し、また文書にもした。

ヨシヤ王の死 → キュロス王の布告 70年!!

荒廃の時代 (歴代誌第二 36章)

新バビロニア帝国

ペルシャ

荒廃の時代・70年

捕囚

ヨシヤ王の死

バビロン捕囚

キュロス王の布告

BC608年 11年

BC586年

BC538年

エホヤキム

3ヶ月
エホアハズ

3ヶ月
エホヤキン

ヨシヤ ♡

31年

ゼデキヤ

11年

200年以上前に預言されていた、キュロス王による解放

■ 歴代誌第二36:23

「ペルシアの王キュロスは言う。

『天の神、【主】は、地のすべての王国を私にお与えくださった。この方が、ユダにあるエルサレムに、ご自分のために宮を建てるよう私を任命された。あなたがた、だれでも主の民に属する者には、その神、【主】がともにいてくださるよう。その者は上って行くようにせよ。』」

バビロンの最後 ダニエル書5章

■ベルシャツアル王が大宴会で、エルサレム神殿から持ってきた器で酒を飲み、偶像の神々を讃えた。

→神の指が、壁に文字を書いた。ダニエルが解き明かした。

■その夜、ベルシャツアル王は殺され、メディア(ペルシャ)のダレイオス(キュロス王の家臣)が、バビロンを征服した。

→伝承では、ユーフラテスの流れを変え、堀を干上がらせた。

■ペルシャ王がキュロス。配下のダレイオスは、バビロン州を治めた。

栄華を誇った新バビロニア帝国は、100年足らずで幕を閉じた。



バビロンの再現図



新バビロニア
帝国

ニネベ

バビロン

エルサレム

エジプト




II. 捕囚からの帰還

エズラ書1章

ユーフラテス川

エズラ記の構成

1～6章	神殿の再建	1章	キュロス王の布告 
		2章	帰還民の部族リスト・再建の開始
		3章	神殿建設・礎の敷設
		4章	妨害(15年間停止)
		5章	工事の再開
		6章	神殿の完成・奉獻
7～10章	信仰の再建	7章	エズラ の帰還
		8章	レビ人と祭司の再編
		9章	異邦人との雑婚問題
		10章	悔い改めと聖別

200年以上前に預言されていた、キュロス王による解放

■イザヤ書44:28

「**キュロス**については

『彼はわたしの牧者。わたしの望むことをすべて成し遂げる』

と言う。

エルサレムについては『再建される。神殿はその基が据えられる』

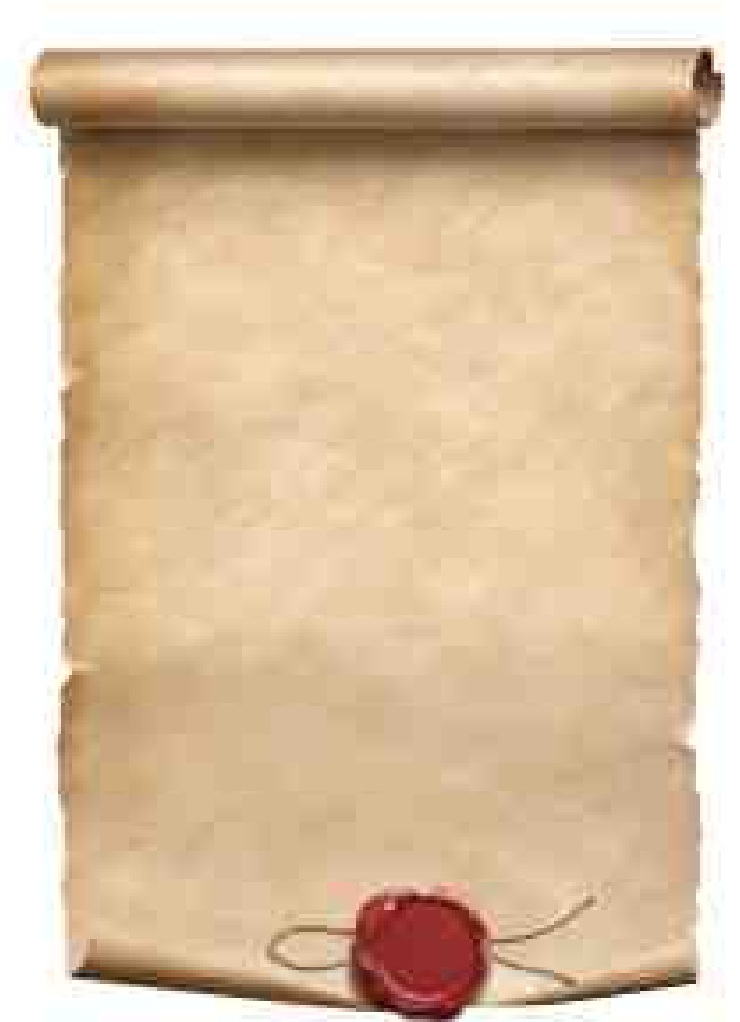
と言う」

布告 キュロス王の布告 エズラ1:1

ペルシアの王キュロスの第一年に、エレミヤによって告げられた【主】のことは*が成就するために、【主】はペルシアの王キュロスの霊を奮い立たせた。王は王国中に通達を出し、また文書にもした。

*エレミヤ29:10~11

■キュロス王の背後に働かれる神の御手



布告 主の任命 エズラ1:2~3

「ペルシアの王キュロスは言う。『天の神、
【主】は、地のすべての王国を私にお与えくださった。この方が、ユダにあるエルサレムに、ご自分のために宮を建てるよう私を任命された。

あなたがた、だれでも主の民に属する者には、その神がともにいてくださるよう。その者はユダにあるエルサレムに上り、イスラエルの神、
【主】の宮を建てるようにせよ。この方はエルサレムにおられる神である。

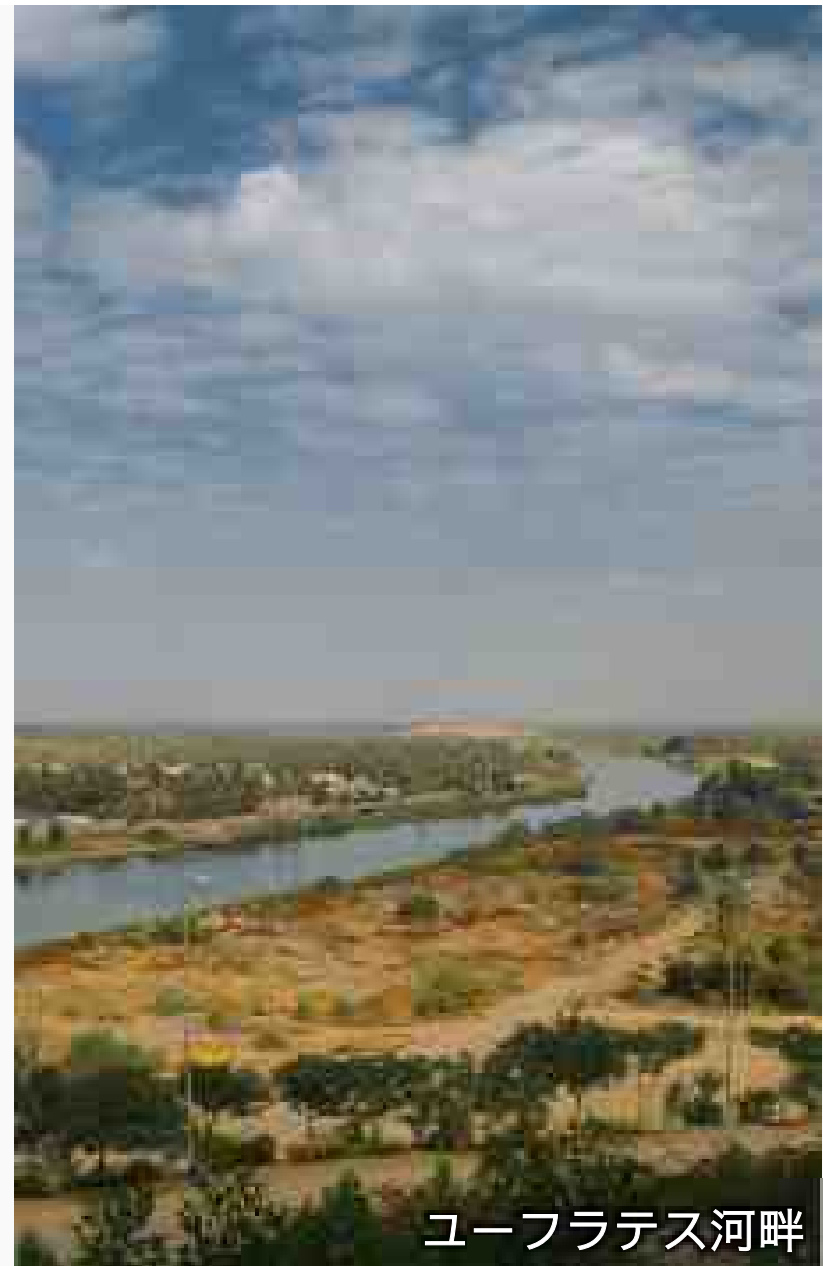
■ 異邦人の王が、エルサレム神殿再建の命令を!!



布告 寄留者の支援 エズラ1:4

あとに残る者たちはみな、その者を支援するように*せよ。その者がどこに寄留しているにしても、その場所から、その土地の人々が、エルサレムにある神の宮のために進んで献げるものに加え、銀、金、財貨、家畜をもってその者を支援せよ。』」

*帰還者を、在留者が経済的に支援



ユーフラテス河畔

布告 主の激励 エズラ1:5~6

そこで、ユダとベニヤミンの一族のかしらたち、祭司たち、レビ人たちは立ち上がった。エルサレムにある【主】の宮を建てるために上って行くように、神が彼ら全員の霊を奮い立たせたのである。

彼らの周りの人々はみな、銀の器、金、財貨、家畜、選りすぐりの品々、そのほか進んで献げるあらゆる物をもって彼らを力づけた。

■ 帰還を決意したのは、レムナント。

堅く信仰を保ち続けた残れる者たち。



布告 主の宮の器 エズラ1:7~8

キュロス王は、ネブカドネツアルがエルサレムから持ち出して、自分の神々の宮に置いていた【主】の宮の器*を運び出させた。

ペルシアの王キュロスは財務官ミテレダテに命じてこれを取り出し、その数を確かめさせ、ユダの首長シェシュバツアルに渡した。

*器以外は消失。契約の箱も。



宣告 携え上った民 エズラ1:9

その数は次のとおりであった。金の皿三十、銀の皿一千、香炉二十九、金の鉢三十、予備の銀の鉢四百十、その他の器一千。

金や銀の用具は全部で五千四百あった。捕囚の民がバビロンからエルサレムに上ることを許されたとき、シェシュバツアルはこれらの物をみな一緒に携えて上った。





Ⅲ. まとめと適用

生活し、聖書に堅く立ち、実行しよう

ユーフラテス川

捕囚によってイスラエルが得たもの

- **神殿の喪失** → 神殿でいけにえを献げることができない。
→ 信仰の有り様を根本から問われることに!!

- ① **会堂(シナゴグ)の誕生。**
→ 祭儀中心から、律法の学び中心に!!

- ② **聖書の重視**
→ 律法、預言書、諸書が、体系的に編纂されていく!!

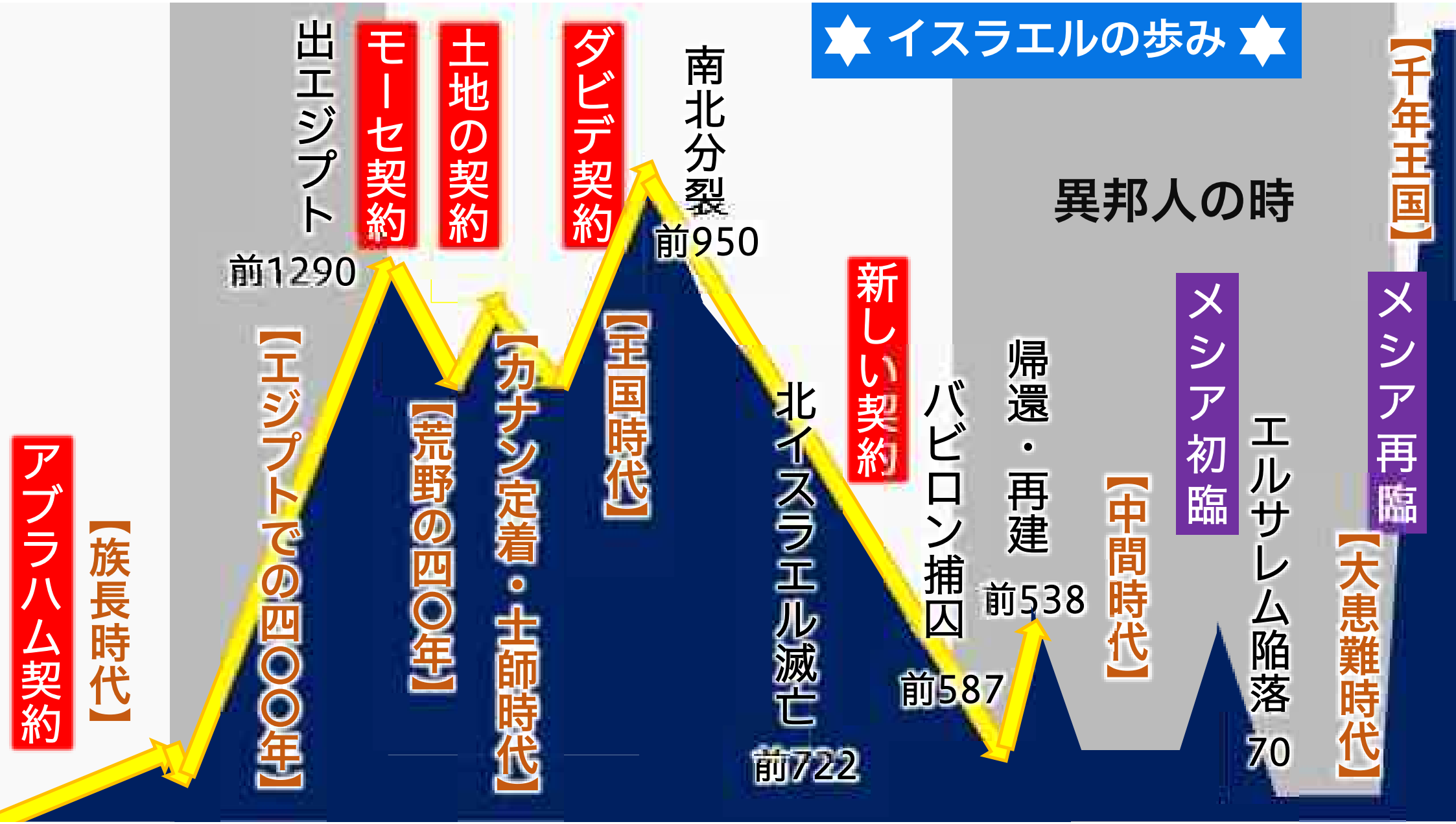
長い苦難の流浪の時代を生きる土台が築かれた!!

預言書が教える捕囚からの解放の意味





★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

前1290

【エジプトでの四〇〇年】

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

前950

南北分裂

前722

北イスラエル滅亡

新しい契約

前587

バビロン捕囚

前538

帰還・再建

【中間時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

イスラエルの苦難の時代・「異邦人の時」

- **バビロン捕囚**のエルサレム陥落以降は、**「異邦人の時」**
 - イスラエルは、神の王国建設まで、異邦人に蹂躪され続ける
- **第二神殿**を建設。後にヘロデが大拡張。→ 神の栄光の臨在はない
- 約束された**メシアが初臨** → 栄光を身に携えてエルサレムに上る
 - イスラエルは拒絶、十字架の死と復活
- ローマによる**エルサレム陥落**(AD70) → さらに2千年の流浪
- 一時的な回復が現在のイスラエル → **大患難の裁きの備え**

預言書が教える捕囚からの解放の意味

■ 預言が示す大きな二つの苦難と解放

①バビロン捕囚 → キュロスによる解放

②大患難時代 → メシアによる解放

■ 世の終わりまで、イスラエルの苦難は続く

■ 過去の預言の成就(捕囚と解放)が、将来の預言の成就を保証!!

→キュロス王(メシアの予型)は、捕囚から解放した。

→メシアは、イスラエルに最終的な回復をもたらす。

捕囚からの解放が、最終的な回復の確信と希望に!!

まとめ・捕囚の地の残れる信仰者に教えられること

- 捕囚の地で民は家を建て、働き、子を生子、その地の平和を祈った。
→ 地に足をつけ、**主に信頼して生活した**
- 神殿を失った民は、会堂を組織し、聖書を編纂した。
→ かつてないほど、**主の御言葉に寄りすがった**
- キュロス王の布告を受けて、奮い立って帰還した。
→ 神の時を逃さず、**主の命令に従って行動した**

①生活する ②聖書に立つ ③行動する

★ 捕囚の民に教えられる信仰 ★

- 差し迫った苦難を前になお、「りんごの木を植える」
 - ➔ 地に足のついた生活の基盤のない人ほど揺さぶられやすい
 - ➔ 顔と顔を合わせた、真実に家族と呼べる関係性の大切さ
- 大きな苦難に直面するほど深まる、御言葉しかないという確信
- 忍耐して待つべき時、動き出すべき時、神の時を捕らえて動こう
- 捕囚からの解放は、預言通り、神によって成し遂げられた。

主イエスは再臨され、神の国を建てられ、私を招き入れられる

てん とう つみ
「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

かみ こ
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

① わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ
② 墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③ 三日目に復活したこと、を信じます。

よ お ちか せかい こんとん ふか
世の終わりは近づき、世界はますます混沌を深めています。

ち あし あた せいかつ よろこ たの もの
地に足をつけ、与えられた生活を喜び楽しむ者としてください。

わたし みことば いじょう した よ
私は、御言葉に、これまで以上に親しみ、寄りすがります。

とき のが しゅ めいれい じっこう しゅ ま のぞ
時を逃さず主の命令を実行します。主を待ち望みます。マラナタ。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」